

1 第4次計画策定後に顕在化している主な環境課題

〈地球規模での環境課題〉

- 地球温暖化により頻発する異常気象・大規模災害、生物多様性の危機
- 「パリ協定」の発効と米国の離脱表明
- マイクロプラスチック等の海洋ごみによる海洋及び沿岸の生物と生態系への影響

〈身近な環境課題〉

- 生態系の危機
 - *野生鳥獣による農林業被害等、ツキノワグマの人里への出没
 - *ヒアリ等の危険な特定外来生物の新たな侵入
 - *人口減少社会における里地・里山の保全・再生、瀬戸内海における栄養塩類の減少等の環境変化
- PM2.5の近隣諸国からの越境移流、使用建築物の解体件数がピークを迎えるアスベスト対策、環境影響が未解明な未規制化学物質等への対策

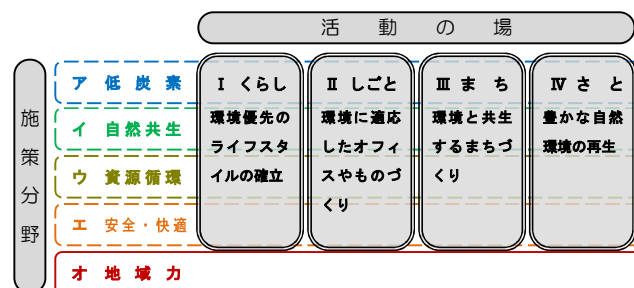
〈エネルギー問題などを踏まえたライフスタイルの転換〉

- 温室効果ガス削減に向けた省エネルギー等のさらなる推進

2 施策体系

※第4次計画の体系として、県民・事業者・NPO等の各主体別にわかりやすく整理されているため、第5次計画においても継承

- (1) 県民の活動の「場」として「暮らし」「しごと」「まち」「さと」の4つの柱で施策を整理し、県民の積極的な取組を促進
- (2) 「低炭素」「自然共生」「資源循環」「安全・快適」という環境分野を上記の「場」ごとに整理し、複合的に施策を推進
- (3) 環境課題への全県的な対策と併せ、各主体が協働し地域の特性を生かして取り組む「地域力」を環境づくりの基盤として位置付け、環境保全・創造の取組を総合的に推進

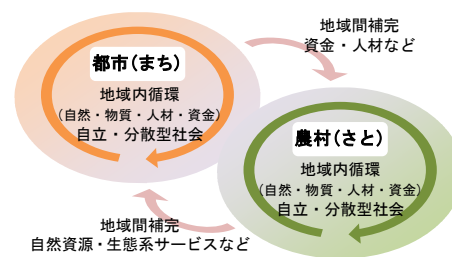


3 基本理念

環境を優先する社会へ地域が先導し、“恵み豊かなふるさとひょうご”を次代につなぐ

〈地域資源の循環とネットワーク化〉

○私たちのふるさとであり、暮らしの場でもある兵庫県は、日本の縮図とも称される多様な地域性を持ち、都市や農村それぞれの地域で脈々と受け継がれてきた生活や伝統、歴史文化、自然景観、産業基盤などの地域資源が豊富に存在している。各地域がその特性・強みを生かしながら、地域ごとに異なる資源が循環する自立・分散型の社会を形成した上で、より広域的なネットワークを構築するなど、相互に地域資源を補完し、支え合いながら、地域を活性化していくことが望まれる。



〈環境・経済・社会の統合的向上〉

○環境問題は人類のあらゆる社会・経済活動から生じており、「環境・経済・社会」は相互に依存する一種の大きな共存関係にあることから、それらの持続的な向上・発展が求められている。

〈地域力の発揮〉

○私たちは、改めて自分たちの暮らしが、さまざまな自然資源や生態系サービスなどの「恵み」によって豊かになっていること、また、それらの「恵み」が豊かな森林や健全な生態系などに支えられていることを認識するとともに、地域のあらゆる主体がそれぞれの魅力やふるさと意識を共有し、暮らしや事業活動、都市や農村といった活動の場において、よりよい環境づくりに向けて協働する「地域力」を今こそ発揮していかななくてはならない。

〈恵み豊かなふるさとひょうごの実現〉

○こうした多様な「地域力」による取組を通じて、環境を優先する社会へ先導することによって、良好で快適な生活環境の中で人と自然が共生する「恵み豊かなふるさとひょうご」を実現し、次代に引き継いでいくことが重要である。

4 今後の施策展開において重要となる視点

視点1 分野横断的な取組の推進(6つの方針)

方針① 環境・経済・社会の統合的向上

- 環境・経済・社会の諸課題は密接に関係
- 人口の減少や偏在、高齢化等により、地域コミュニティの弱体化など経済・社会的課題が深刻化するなか、社会経済システムに環境配慮を盛り込む必要
- 活力ある地域社会づくりの観点から、社会・経済的課題の解決に資する統合的な取組が求められている (例) グリーンインフラの整備

方針② 環境の視点からの地域創生の実現

- 環境・経済・社会の全ての面において持続可能な、魅力ある地域づくりを進める
- 自然環境やエネルギー、地域風土や伝統文化、人材等、地域資源を生かしながら地域を活性化 (例) デジタル利用拡大
- 自立・分散型エネルギーの導入等によって、域外への資金流出を抑制し、地域の経済循環や雇用を確保
- 環境負荷に対する代替措置の仕組みづくり (例) CO₂削減のための新たな基金の創設

方針③ 対話と連携・ネットワークの重視

- 課題解決には多様な主体の参画・協働が重要 (例) IGES・企業の低炭素技術移転、県・市町の連携強化
- 「自然的つながり」(森・川・里・海)、「経済的つながり」、「人的つながり」など、多様なつながりの活用
- 各地域が特性を生かして自立・分散型の社会を形成しつつ、近隣地域等と広域的なネットワークを形成し、相互に補完し支え合う「地域のつながり」を形成 (例) 地域循環共生圏
- 丁寧な説明や意見交換の場 (例) 太陽光発電施設等と地域環境との調和に関する条例、産廃紛争予防調整条例

方針④ 持続可能な社会づくりを先導する人材育成の強化

- 地域の環境保全・創造に係る実践的活動を担う人材に加え、従来の活動・事業の転換や新たな事業の起業などを通じて、持続可能な社会づくりを牽引することのできる人材の育成 (例) 再エネ等事業化人材の育成
- 乳幼児期や学齢期からの参加・体験型の学習の実践と指導者の育成
- 大学・大学院等での専門的かつ実践的な教育
- 社会人が専門的な知識を獲得し必要なスキルを向上させることのできる学習機会の提供
- シニア世代の掘り起こしと活躍支援

方針⑤ 技術革新(イノベーション)の普及・活用

- 地球規模での課題の解決や、環境・経済・社会の統合的な問題解決・向上を図るためには、既存技術だけでなく、革新的な科学技術によるイノベーションが不可欠 (例) 水素社会、ICTを用いた鳥獣対策
- 最先端科学技術の社会システム・取組への積極的な組み込み
- 革新的技術・先導的システムの海外諸国へ提供

方針⑥ 強靱性(レジリエンス)の向上

- 環境・経済・社会の統合的向上や地域創生を進める上では、県民にとって安全・安心な県土空間の確保が基本で、強靱性(レジリエンス)の向上が必要 (例) 災害に強い森づくり等豪雨対策、温暖化からひょうごを守る適応策、再エネを活用した災害時のエネルギー確保、災害廃棄物処理、ヒアリ対策

視点2 SDGsの考え方の活用

- 2015(平成 27)年9月の国連総会において「持続可能な開発目標」(SDGs)を掲げる「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択
- SDGsの17ゴールには環境に関わるものも多く、あらゆる利害関係者(ステークホルダー)や当事者の参画を重視する全員参加型の理念は、本県の環境政策の展開で重視してきた「地域力」の考え方と基盤の部分で共通
- SDGsの理念や目標を共有するとともに、一つの行動が複数の側面における利益を生み出すマルチベネフィットの考え方や、あるべき将来像から逆算して現在すべきことを考えるバックキャストの考え方を活用

視点3 重み付けした指標による適切な進捗管理

- 各分野の概況を把握する指標として設定した「ひょうごの環境指標」の有効性を判断し、さらなる取組の推進に資することができるよう、適切な指標の選定や重み付け、明確で客観的な評価基準を設定
- 計画の効果的な実施を図るため、毎年度の状況を分析・評価し、GPDCAサイクルで進捗管理
- 点検・評価の結果は、県環境審議会に報告し、意見・提言を求め、取組を持続的に改善

＜20の重点目標＞

低炭素	① 温室効果ガス排出量	資源循環	⑨ 1人1日あたりの家庭系ごみ排出量
	② 再生可能エネルギー発電量		⑩ 一般廃棄物・産業廃棄物最終処分量
自然共生	③ 適応策の県民への認知度	安全・快適	⑪ 一般廃棄物・産業廃棄物最終処分率
	④ 県庁舎照明のLED化		⑫ ごみ発電能力
	⑤ 生物多様性保全プロジェクト団体数		⑬ 水環境の良さ(環境基準)
	⑥ 野生鳥獣による農林業被害額		⑭ 大気のおきれいさ(環境基準)
地域力	⑦ 里山林整備面積		⑮ 次世代自動車割合
	⑧ 漁場環境改善面積		⑯ 市町災害廃棄物処理計画の策定率
	⑰ 持続可能な社会づくりを先導する人材数		⑲ 環境保全に取り組むNPO法人数
	⑱ 環境保全に取り組む事業者数		⑳ 環境ホームページ年間アクセス数

5 具体的施策の展開

低炭素

～CO₂排出をできる限り抑え地球温暖化対策を推進する～

望ましいすがた

省エネ型のライフスタイルや経済活動、再生可能エネルギーの導入など温室効果ガスの排出の少ない仕組みが浸透している。また、森林整備によるCO₂吸収源としての機能強化、交通・移動手段や建築物などの低炭素化による環境と共生するまちづくり、各主体の参画と協働のもと温暖化の影響評価を踏まえた県独自の適応策が進んでいる。

自然共生

～人と動植物が共存し豊かな自然を守り育てる～

望ましいすがた

生物多様性保全に対する意識の高まり、豊かな生態系の維持、野生動物の適正な保護・管理により、人と野生動物が共存している。また、さまざまな担い手により、里地・里山・里海が適切に管理され、水や物質が循環する豊かな自然が保全・再生されている。

資源循環

～ものを大切に、天然資源の使用をできる限り少なくする～

望ましいすがた

天然資源への依存度の少ない生活や経済活動が進展し、発生した廃棄物は資源やエネルギーとして再利用されるリサイクルシステムが構築されている。また、やむを得ず発生した廃棄物が適正に処理され、安全かつ確実に最終処分されている。

安全・快適

～水や空気のきれいな安全・快適空間をつくる～

望ましいすがた

良好な水やきれいな空気で、快適な生活環境が確保されるとともに、県民自らが環境美化に取り組み、美しい環境が確保されている。また、化学物質等のリスク調査・研究により、人の健康や環境へ及ぼす影響の未然防止、自然災害への備え等により安全・安心な生活環境づくりが進んでいる。

地域力

～あらゆる主体がそれぞれの地域の特性を生かして環境保全・創造に向けて協働する～

望ましいすがた

様々なライフステージに応じた環境学習・教育が展開され、ふるさと意識・環境保全に対する意識の向上が図られている。また、各主体のネットワークによる、それぞれの地域の特性を生かした地域づくり、環境情報の提供等による県民の参画と協働の基盤が整備されている。

県民

- ① ①いのちのつながりを実感する学校等における環境学習・教育の推進
- ② 地域の自然環境や風土、歴史、文化への理解を促し、ふるさとへの愛着を育む地域における環境学習・教育の推進
- ③ ②県民一人一人が、環境負荷の小さい製品・サービスの選択やリサイクル・省エネ行動など、環境にやさしいライフスタイルを実践・確立(②うちエコキッズ)
- ④ 環境美化運動など、環境保全・地域づくりに向けた取組への積極的な参加

地域団体・NPO

- ① 地域づくりの中核として、行政、事業者、県民の連携によるネットワークの形成
- ② ②各主体における環境学習・教育、研究、人材育成、情報提供、政策提言等の実施(②再エネ等事業化人材の育成)
- ③ 地域の特性を生かした環境学習・教育の実施、実践の場の提供
- ④ 地域ネットワークを生かした、都市と農村の地域間連携・自然交流等のコーディネート・担い手づくり

事業者

- ① ①生活者・消費者への意識啓発や情報提供、環境負荷の小さい製品やサービスに関する研究開発等への積極的な投資(②ESG投資の実施)
- ② 環境報告書の作成・公表や地域での環境学習・教育の実施など企業の自主的な取組の推進、環境影響・環境負荷に関する情報の県民への適切な公開
- ③ 「企業の森づくり」など、CSR活動を通じた環境保全活動の実施

行政

- ① 政策の目標設定と効果的・効率的な推進
- ② 関係法令の的確な運用
- ③ ③環境学習・教育を支える基盤の構築(③環境担い手ネット)
- ④ 各主体の環境保全活動への支援・コーディネート
- ⑤ 調査研究機関との連携による新たな施策の研究
- ⑥ 市町との連携や関西広域連合における広域的取組の推進
- ⑦ 姉妹提携都市等との環境分野における国際協力の推進
- ⑧ 事業者としての環境率先行動の推進
- ⑨ 県民・事業者へのわかりやすい情報提供

くらし

- ① CO₂排出の少ないライフスタイルへの転換
 - ・ ②省エネ行動の推進、住宅の省エネ等の推進
 - ・ イベント等での地域に根ざした取組の推進、うちエコ診断によるCO₂の見える化
 - ・ 県産農林水産物の消費促進、グリーン購入等の推進(②CO₂排出の少ない電力選択)
- ② ②再生可能エネルギーの導入拡大

③ ③温暖化からひょうごを守る適応策の推進
・ 地球温暖化の影響に備え、対処する「適応策基本方針」の推進、地球温暖化の影響評価を踏まえ県独自の適応策を組み込んだ「適応計画」の策定

しごと

- ① 低炭素型の経済活動の推進
 - ・ ②排出抑制計画の公表制度
 - ・ 省エネ設備導入の推進(②新たな基金の創設)、フロン類回収の推進
- ② オフィス・ビルの低炭素化
 - ・ 省エネ型ビルの普及、エコオフィス化
- ③ ③再生可能エネルギーの導入拡大

まち

- ① 環境に配慮した交通の実現
 - ・ ②水素ステーション・充電設備の整備
 - ・ エコドライブの推進、低公害車の普及
- ② 低炭素型まちづくりの推進
 - ・ ②水素社会など先進的なまちづくりの推進
- ③ ヒートアイランド対策の推進
 - ・ 都市緑化の推進、モニタリングによる都市部の気温分布の把握

さと

- ① CO₂吸収源としての森林の機能強化
 - ・ 資源循環型林業の構築
 - ・ ②「新ひょうごの森づくり」「災害に強い森づくり」の推進
- ② ②カーボンニュートラルな資源としての木材利用の促進
 - ・ 県産木材の供給体制確立・利用拡大、木質バイオマス製造・利用施設の整備促進

低炭素

自然共生

資源循環

安全・快適